

# 小字麻姑仙壇記

771年  
(唐・大歴6年)

## 碑法帖拾遺⑦

木 雜室  
伊藤 滋

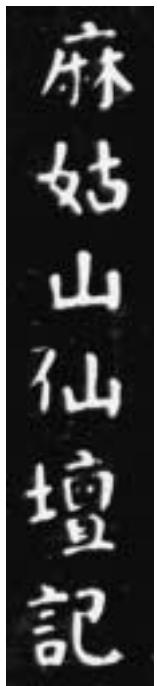


『小字麻姑仙壇記』(停雲館法帖本)

「大字本」



「中字本」



「小字本」



三種の比較

『麻姑仙壇記』には、「大字本」「中字本」「小字本」の三種の刻本が伝えられている。『大字麻姑仙壇記』は顏真卿の楷書の中で最も伝来する拓本のすくない作品である。原刻とされるものは、日本では東京国立博物館と台東区書道博物館に伝えられている。原石は明時代末に滅んだとされる。図版に示したのは、『小字麻姑仙壇記』である。先に紹介した『顏家廟碑』ほどの大きな楷書は多くの碑が伝えられているが、顔書の小字はそれほど多くな

い。有名ものとしては『千祿字書』碑（唐代の原刻ではなく、宋時代の重刻とされるものである）。この『小字麻姑仙壇記』である。明・文徵明が編纂した『停雲館法帖』（十二巻）の卷一の魏晋唐小楷に収められたものが、優れた刻本として著名である。ここに示した『小字麻姑仙壇記』は、『停雲館法帖』の原刻拓本の精本である。小字でありながら大字的な顔書の趣を伝えた珍しい作品である。

有唐撫州南城縣麻姑山仙壇記 頤真卿撰并書  
 麻姑者葛稚川神仙傳云王遠字方平欲東之括蒼  
 山過吳祭經家教其戶解如蛇蟬也經去十餘季忽  
 還語家言七月七日王君當來過到期日方平乘  
 車駕五龍各異色旌旗道從威儀赫奕如大將也既  
 至坐須臾引見經父兄因遣人與麻姑相間亦莫知  
 麻姑是何神也言王方平故報久不行民間今來在  
 此想麻姑能轉來有頃信還但聞其語不見所使人  
 曰麻姑再拜不見忽已五百餘季尊卑有序修敬無  
 階思念久煩信承在彼登山顛倒而先被記當按行  
 蓬萊今便轉往如是便還即親觀而不即去如此兩  
 時間麻姑來時不先聞人馬聲既至從官當半於方  
 平也麻姑至蔡經亦舉家見之是好女子年十有九  
 許頂中作善餘髮垂之至要其衣有文章而非錦綺  
 光彩耀日不可名字皆世所無有也得見方平爲起  
 立坐定各進行廚金盤玉杯無限美膳多是諸華而  
 香氣達於内外擣麟脯行之麻姑自言接待以來見  
 東海三爲桑田向聞蓬萊水乃淺於往者會時日  
 復揚塵也麻姑欲見蔡經母及婦經弟婦新產數十  
 日麻姑望見之已知曰噫且止勿前即求少許米便

# 書道藝術院 平成の書(2008)



第61回書道藝術院展出品「霜塔」

高 橋 松 延

書道藝術院  
參與會員



書道藝術院も人間で言えば、還暦を過ぎました。来年は62回展となります。顧みますと60年と言う年月を、夢の様に恍然として、過ごした様な気がします。

財団法人書道藝術院と言う、大きな組織となり、先人の書作の研究、活動のご努力があってこそと、尊敬の念を懐きます。  
世代交替で、若い方達の時代です。戦後の苦しい時に書道界の為に尽されたご努力を肝に銘じ、書作に励げんといただきたい。

前に述べられた小伏、浜田、村野先

生の文章に感動し、私など不勉強で、恥入るばかりです。

写真作品は、本年、書道藝術院展に出品したものです。俳人、松本たかしの句で、「霜の塔莊嚴なりし倒れ消ゆ」で霜の塔とは、霜柱のことです。現在は、暖冬で、霜柱もみられませんが、子供の頃、11月3日明治節（文化の日）学校の式に参加する折、霜柱を靴で倒して行きました。銀色の柱が倒れ日に照らされ美しく光るのを楽しんだものです。この小さな気にも留めない自然現象を俳句にしたのに心引かれ、子供の頃を思い出し、作品としました。

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 輝く毎日書道顕彰

—赤平・山崎・大田・北野—

第21回（平成20年）毎日書道顕彰の選考結果が発表されたので紹介しておきます。

### 〔書道芸術部門〕

○赤平泰処（和順）氏

推薦者（荒木大樹貞香会理事長、中村素岳同顧問）

・昭和21年1月1日生まれ

・毎日書道展審査会員（漢字部）

・平成19年11月、東京セントラル美術館で開催された「わが心の書赤平泰処展」は、過去五回の個展の集大成として、書体と書分野のすべてを網羅した作品群は、骨格の確かな、しかも線に柔らか味のある、品格ある書と高く評価された。

### 〔書道啓蒙部門〕

○北野攝山（芳男）氏

推薦者（船本芳雲理事）

・昭和26年5月15日生まれ

・毎日書道展審査会員（近代詩文書部）太源書道会理事長

・平成19年10月、毎日新聞大阪本社オーパルホールで開催された「第五回北野攝山書展＝書の美的本質を求めて＝」は、揺るぎない書線をもとに、多岐に渡るテーマを見事に表現し、書の崇高さを広く啓発

### ○山崎暁子（暁）氏

推薦者（飯島春美日本書道美術院理事長、鬼頭墨峻評議員）

・昭和2年4月29日生まれ

・毎日書道展名譽会員、日本書道美

・平成19年5月、東京銀座画廊、美術館で開催された「山崎暁子書展」は、上代様かなの研鑽を続け、すぐれた書線で現代書としての大字かなの書表現を追及し、見識ある作品と高く評価された。

小伏小扇実行委員長は、

第二回展の内閣総理大臣賞

全国学生書道展が60回展を迎えた。敗戦後の荒れた日本社会の中で伝

統文化を守ろうと心ある人たちは努力しました。書道芸術院は、革新の書芸を推進しながら、次代を担う青少年の書道教育を手がけました。

したと高く評価された。

・平成19年5月、東京銀座画廊、美術館で開催された「山崎暁子書展」は、上代様かなの大字かなの書表現を追及し、見識ある作品と高く評価された。

全国学生書道展が60回展を迎えた。敗戦後の荒れた日本社会の中で伝統文化を守ろうと心ある人たちは努力しました。書道芸術院は、革新の書芸を推進しながら、次代を担う青少年の書道教育を手がけました。

昭和26年、「全国学生競書大会」として今東京都美術館で、全国で始めての半紙による展覧会をはじめました。

第二回展の最高賞、内閣総理大臣賞は、加藤靖子さん、（現在の小伏小扇先生）そして、60回展の実行委員長として、8月1日～3日の台湾訪問団の役員として訪台されます。偶然かも知れませんが、不思議なご縁だなあと思っています。

（附）毎日書道会 記録 理事、監事、総務、評議員、参事 一覧						
団体	顧問(14)	理事(18)	監事(2)	総務(10)	評議員(27)	参事(19)
創玄 15	○最高：金子 ○最高：中野 ○常任：大井 顧問：内山 玲子	鶴松 北原 鶴亭 吉田 石飛 正堂 ○田岡		○関口 春芳	吉原 大平 大平 長谷川牧風 ○作田 藤沢 玉谷 ○大谷 洋毅	加藤 大親 松本 矢田 桂雪
日書美 10	常任：加藤 兼任：小林やす子 常任：山崎 暁子	飯島 春美	○渡辺 墓仙	○鬼頭 墓峻	滋賀県書道協会顧問 50年にわたり、滋賀県の書道教育の刷新と実践研究を強力に推し進め、その軌跡をまとめ平成19年11月に刊行された「滋賀の書五十年の歩み」と「人間形成をめざす書教育」は広く感動を呼んだ。	志津 和子
奎星 12	最高：福村 霞洞	岸本 太郎 菅野 清峯		大森 華雪	中原村 茅秋 田村 空谷	貝原 司研 森野 織田 葉山 房堂
独立 8	最高：小林 抱牛	眞政 少登 ○仲川 舜司		竹内 凤仙	片岡 重和 木村 朝穂 山中 葉谷	小島 瑠璃
書道芸術院 10		恩地 春洋		○辻元 大雲	浜谷 芳雲 下谷 洋子 ○大野 祥雲	小伏 竹村 山下 瞳映 浜田 一堂 村野 大仙 ○香川 倫子
東京 3		林 竹聲		林 菊西 中村 薫初	柳 碧蘿	高橋 静豪
日本書道院 3	○最高：田中 漢雲		○宮崎 紫光			
現代書道院 1				長井 葦之 阿部 海鶴	小林 真水 水川 芳秀	
書壇院 2					遠藤 雅	
六友 3	顧問：皆川 雅舟		閑 正人			
篆刻 2	○常任：渡辺 寒鶴 ○顧問：高藤 翠邦			○薄田 東仙	○安藤 靜邦	
刻字 4		神郡 愛竹				
温知 1				寺井 朴堂 後藤 泉清		桑山 大道
玄南 2						
白峰 1						
あきつ 1	○常任：米本 一幸	船本 芳雲				
書燈 2				百瀬 大輔		渡辺 洋一 森本 龍石
みちのく 1					小原 道城	
北辰 1					青柳 志郎	
北海道書道協会 1					三宅 相舟	
北陸書道院 1						
相撲会 1						

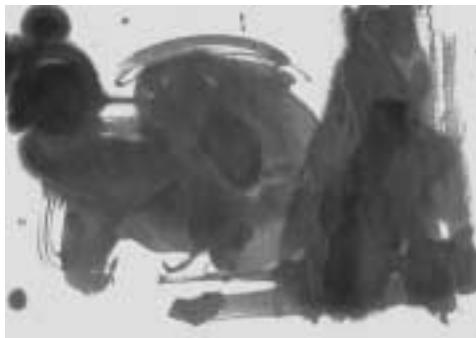
（H20.6.6 改選）

学生展は、少子化の影響で出品品数はふえませんが、私たち書文化を後世に伝えていくために赤字事業を続けております。一層のご支援をお願い申しあげます。  
全国優勝校  
群馬県立渋川女子高等学校  
全国優勝塾  
大阪府 竹扇会  
(以下略)

## 前衛書 (四)

三森慧香

2006年 書道芸術院秋  
季展出品 三森慧香書



「作品2008-4」

三森慧香書

これをつづりながら、合の手とでも言うのか、ふと、手持ちの辞書で、「書道」を引いた。「文字を筆と墨とで書く芸道」とあった。こういう表現で意味が示された場合の語は、出版社により、表現が異なることが多いと経験している私は、さっそく近くの書店におもむき、店の辞書を立ち読みした。一冊見て、暗記しようとしたが駄目で堂々とメモしてきた。一冊目には「漢字やかなを芸術的に美しく書くことを目的にして考え方練習する藝術」とあり、



二冊目には「毛筆を用いて文字を巧みに書く術」とある。それならばと「書家」を引く。それによると「書道の専門家、書道の名人」「書道にすぐれた人、書道を教授し、またはそれを職業とする人」だった。今回は、人との交流でつちかた探究心と個性がテーマのつもりも、どうやらそれどころの話ではない心持ちになった。誌面の都合上、以下次回へ。テーマは当然「書のホームレス」になる。

この作品は2006年の秋季展  
な線の集合になってしまった。  
この作品は2006年の秋季展  
の作品だが墨色に厚みがなく單調

## 21世紀の書

### 私の主張



「DAWN」(夜明け)

—作品制作②—  
個展  
「from  
the  
UNIVERSE」  
(4)

## 漢字 (四)

有野玲扇

作品づくりでは英語にも挑戦してみました。泰文文字である英語を「甲骨・金文の造形力と鋭い線力を活かして表現しよう」と試みました。

「DAWN」(夜明け)は、Dの形から発想し海に映えゆらぎつ昇る真紅の太陽を、WとNで大空に羽ばたく鳥の姿を、余白を活かして朝の透明な空気感を、と制作したものです。

宇宙では塵から無数の星が生まれ進化し、やがて大爆発と共に塵となつて散っていく。この壮大な輪廻転生を

「TWILIGHT」(黄昏・黎明)で表現しました。相反する二つの意味を持った言葉です。横文字を縦に配し、淡墨で一つの光源からの遠近感、滅びゆくものの一瞬の輝きを捉えたものです。

甲骨・金文の持つ不思議な力は、語源や文化の違いを越えて表現の可能性を感じさせてくれました。



180×90cm

566  
(6月)  
有野玲扇書  
作品タイトル  
輝→光年  
訂正  
→

「TWILIGHT」(黎明)

〈解説〉「文皇袁冊」は、唐の太宗が貞觀23年(649)

5月26日、崩御され、同8月にいたり昭陵に葬ると  
き、宮門外で行われる儀式において中書令が読んだ  
哀冊文の草稿である。中書令であった褚遂良が作文  
し、書き、そして宣読したはずである。この哀冊に

も署名がない為、彼の真筆であることを疑う人もいる。

書法は、行書でありながら、枯樹賦と比較すると  
まったく静寂そのもので、動きが少なく沈着であり、

謹厳さと品位の高さが感じられる。

(編集部)

用紙 半紙普通判

※落款を必ず入れる

||注|| 漢字研究部競書作品は、

署名、もしくは

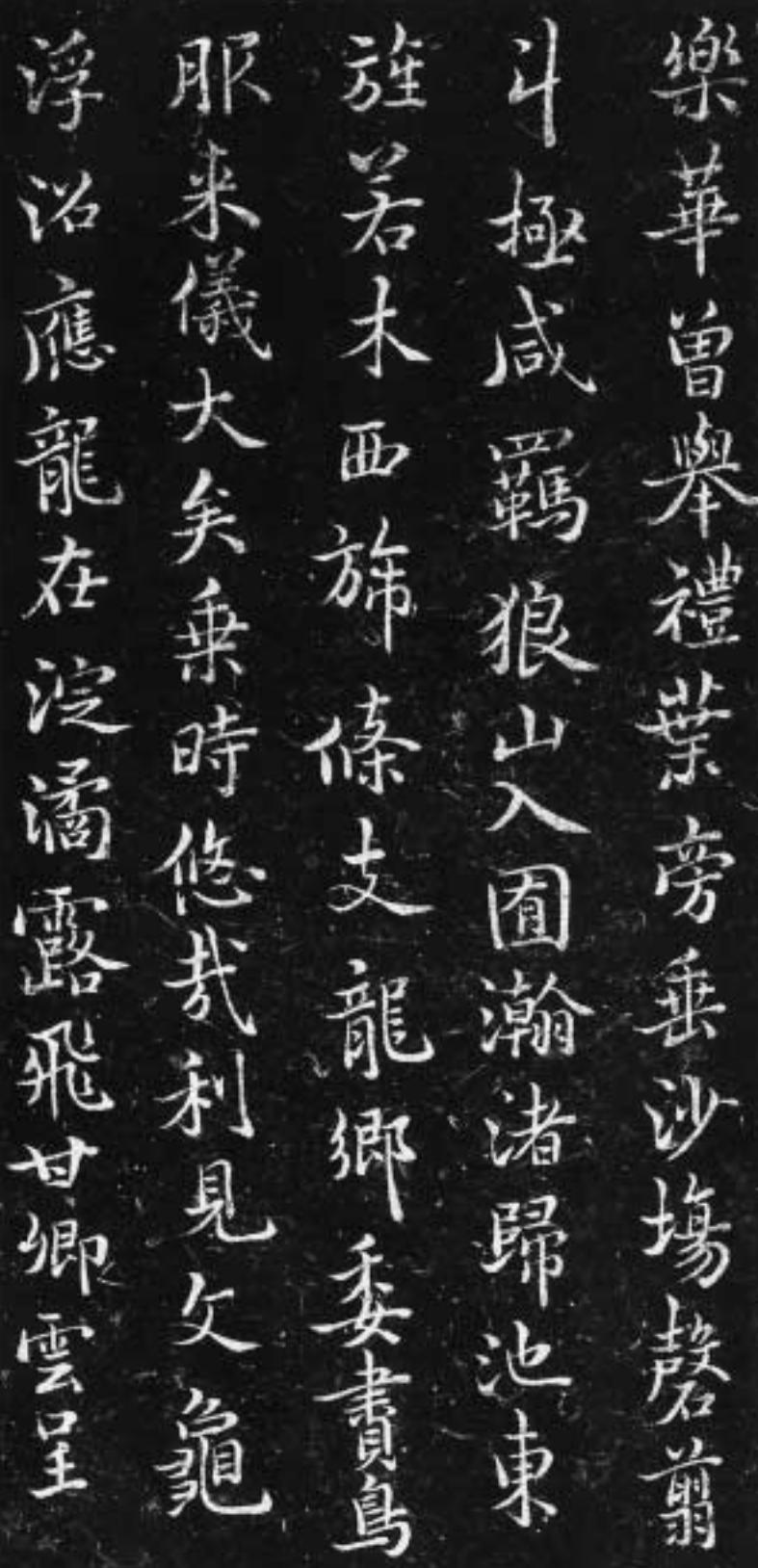
左の法帖の中から

○○臨

何文字臨書してもよい。

(掲載部分以外は不可)

○○臨  
(押印のみ可)



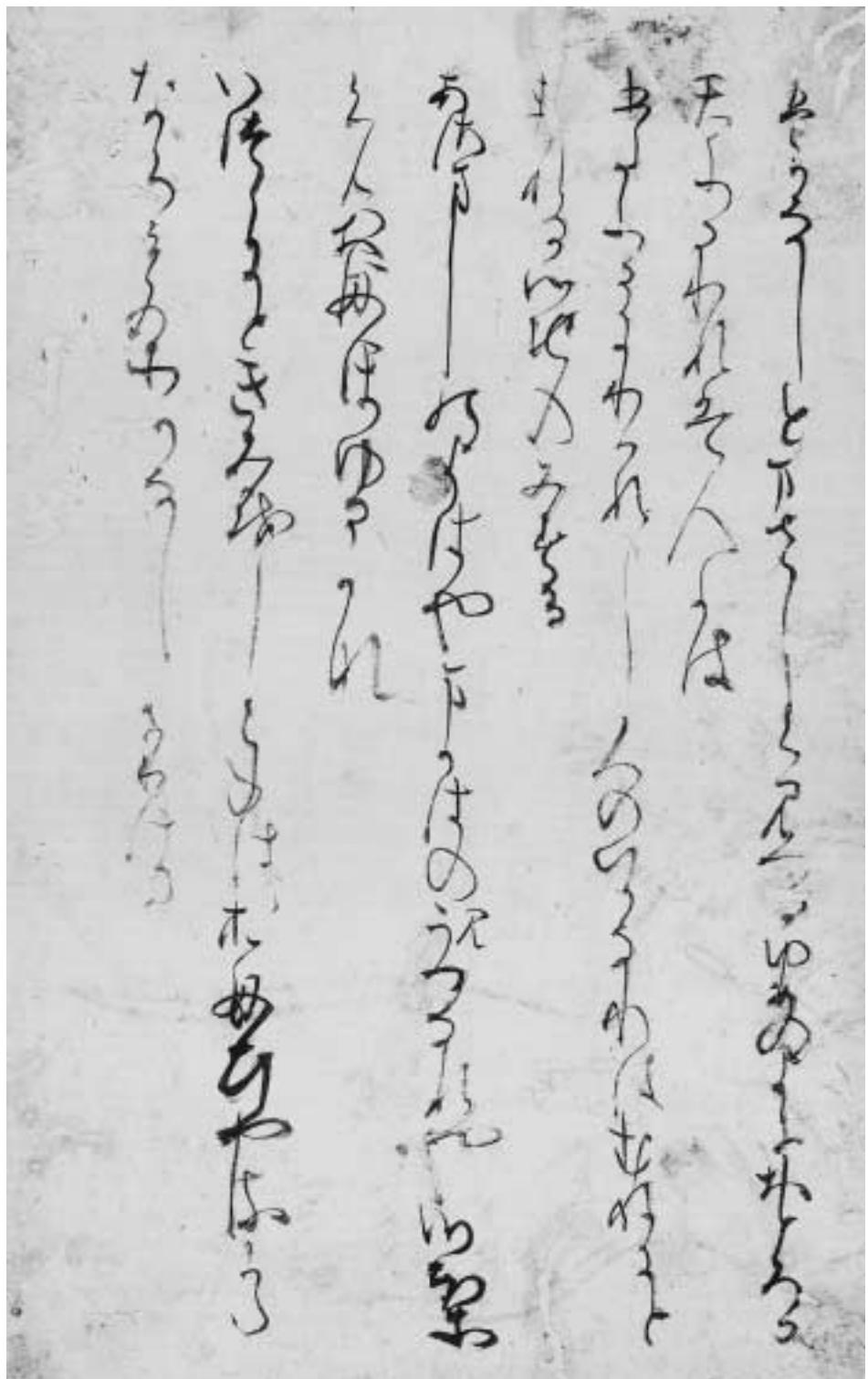
樂華曾舉禮。禮葉旁垂。沙塲磬翦。/斗極咸羈。狼山入固。瀚諸歸汎。東旌若木。西旆條支。龍鄉委責。鳥服來儀。大矣乘時。悠哉利見。文龜浮洛。應龍在淀。濁露飛甘。卿雲呈。

よみ  
はかなしとまさしく見つるゆめのよにおどろか  
天可奈  
あさましのよはやまかはのうづなれや心ぼそ  
佐万能  
くもおもほゆるかな  
いづこにときみをしらねばおもひやるかた  
毛利多  
なくものぞかなしかりける

はかなしとまさしく見つるゆめのよにおどろか  
天可奈  
でふるわれは人かは  
ひたぶるにわかれし人のいかなればむねにと  
ひたぶるにわかれし人のいかなればむねにと  
まれる心地のみする

〈解説〉平安時代の歌人で、日記文学作者である和泉式部の家集を、白楮紙と、淡藍色の楮紙とを用いて書いた。もとは綴葉装(縦21.3cm・横14.5cm)の冊子本。小ぶりながら粘りのある重厚な線質が、見るものの心に迫るような力がある。(編集部)

※落款を必ず入れる。  
署名もしくは〇〇臨  
(押印のみ可)  
※左記の掲載  
歌一首を書く  
用紙・半紙普通判  
(料紙可)





松影和風 よみ(松影和風)

書体=自由

習い方解説 (四)

千葉耕風

松影和風

(松かげは風に和して涼しく感じ  
る)

司空曠の詩より

松影和風—八分隸の古典を頭に入れ、前回と違った書風をねらいました。基本は曹全碑ですが、他に乙瑛碑等も参考にしています。隸書は字形が横広ですので字間があき、行間がつまるのが一般的です。書風が強い主張する時使いますが、硬い感じになるのを如何にして現代的に表現するかがポイントです。

牧 泰濤

慎終如始

(終わりを慎しむことは始めの如し)

①上達のポイント(4)

落款の練習と位置に留意する。

前3ヶ月は「泰濤書・印」。今

月は「泰書・印」です。「本文は

いいが、落款がねえ……」とよく

言われます。平生から練習するこ

とです。本文以上に大切?押印も

「その作品には一ヶ所しかない」

といわれます。そのポイント探し

の眼力は日頃の練習に因ります。

②前月までは、できるだけ楷風を

意識して書いたが、今号は自分

の風を強く出してみた。ご参考に。

思い切り自分風に。芸術は個性の

主張ですから。でも我流だけでは

ダメですね。

③今回は墨量を多めにしました。

筆の長さや紙質に関係しますが、自分

濃淡の工夫も要りますね。

④次回から5字課題を学びます。

慎終如始 よみ(終わりを慎しむことは始めの如し)

書体=楷書



習い方解説 (四)

大辻 多希子

蟬のなき代りしづはるかかな  
(中村草田男)

遙か彼方から聞こえる蟬の声  
その情景を表現してみました。

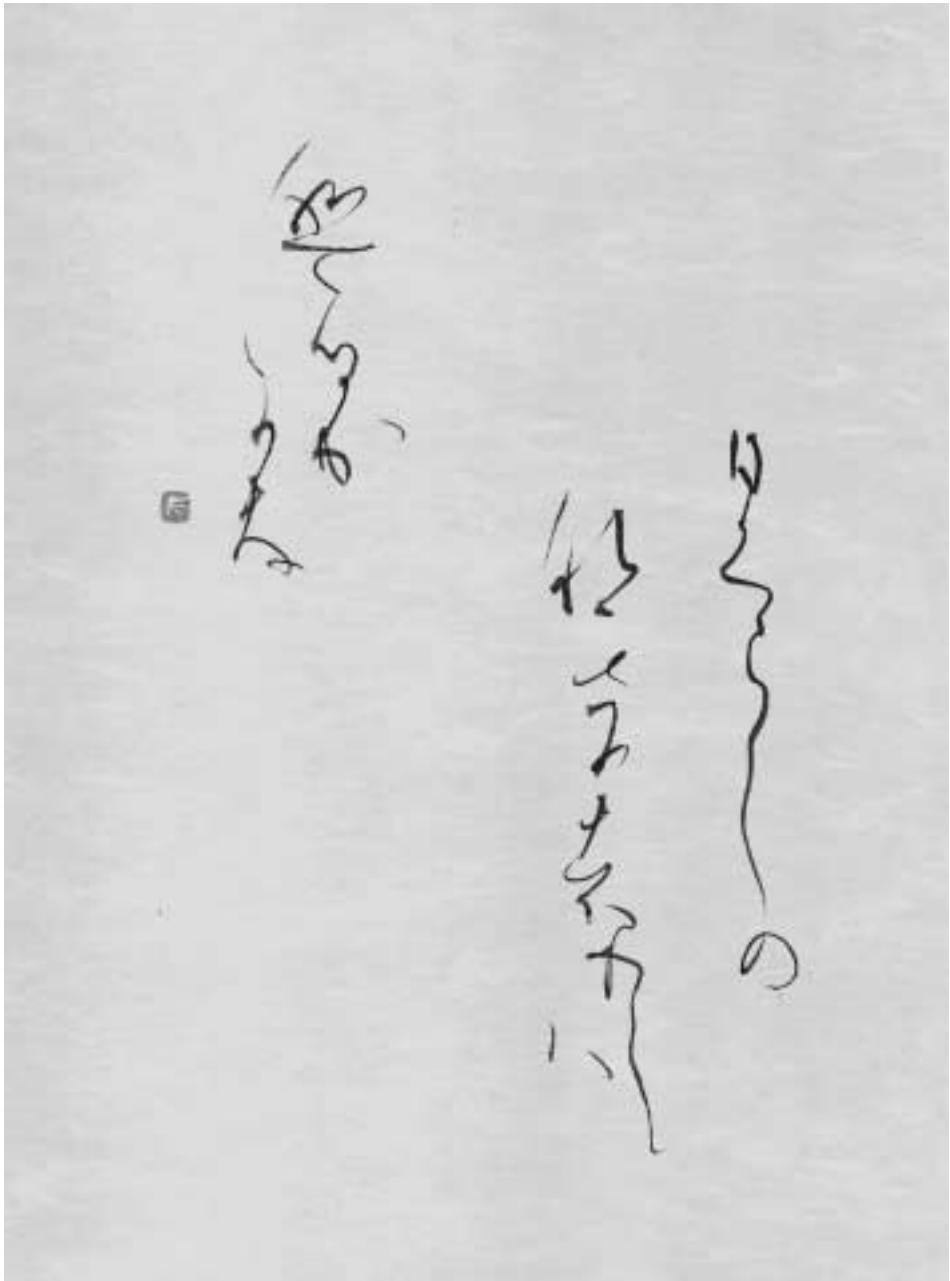
連綿からの書き出しだすが、連  
綿が続くと、流れすぎて単調にな  
り、作品としての効果が半減する  
こともあります。切りながら連綿  
してゆくことも大切です。

作品を大きくするため、し、を  
一行目と、二行目に配置しました。  
行毎の、し、の姿は書かれてい  
る位置と、次の字との関係によつ  
て変化していることに注意します。

最初の墨付けで一気に書きまし  
た。筆圧の強弱や、速度によつ  
て墨量の変化が生まれ、趣が變りま  
す。曲線||ゆづくり、直線||はや  
く、転折||とまる。この三つの動  
作をくり返す。その結果自然にリ  
ズムが形作られてゆきます。

よみ方 ひ(日)ぐらしのな(那)きか(可)は(者)り(利)しは(ハ)  
は(盤)るかか(可)な(奈)

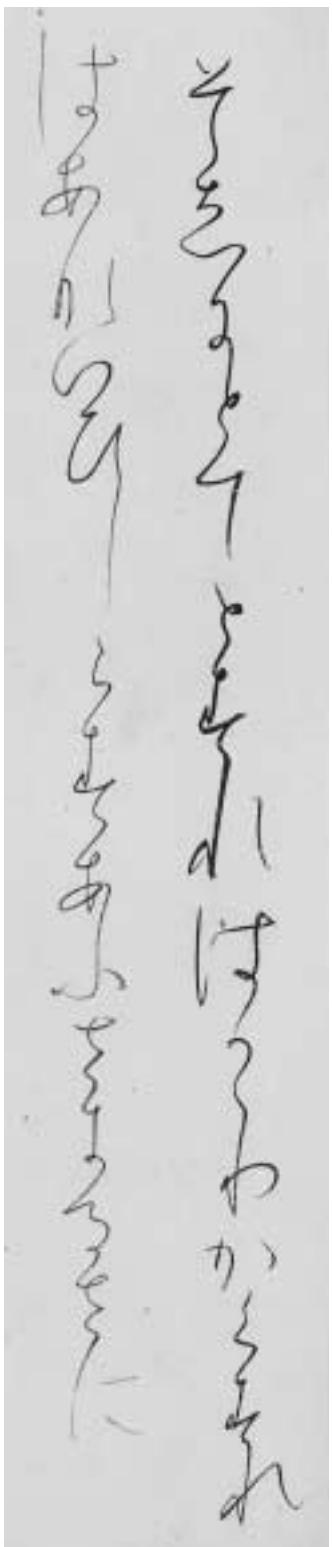
創作



かな規定 秀級以下 【八月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 そゑに(に)とてとす(春)ればか(可)ゝり(利)かく(久)す(春)れ  
ばあな(那)いひしらす(春)あふさき(支)るさに

### 習い方解説 (一)

下谷洋子

かな  
逢坂の関にながるる岩清水いは  
で心に思ひこそすれ

(古今集)



かな条幅規定【八月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

下谷洋子選書

よみ方 逢坂の(乃)せ(世)き(幾)に(し)な(那)が(可)るゝ岩清水  
い(以)は(者)で(天)こゝろに(示)おもひこそ(處)すれ(連)

創作

かなには繊細な美しさがあります  
が、その影にかくれて細くかたい  
筆先だけの動きになりがちです。  
これは字の大小に拘わらず言える  
ことです。特に大字かなは運腕大  
きく大胆に、うねるようなつもり  
で書いてみましょう。そのため  
は目習いと部分練習をして、用字  
や連綿法をしつかり覚えることが  
大切です。

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【八月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

山内孝石選書

## 習い方解説 (四)

山内孝石



煙外：

水墨画にしたいようなよい山で、風が吹くと老木が笙のような音がするという。

笙簫＝笙のふえの舌  
この用筆で、墨の濃淡を変えて書いてみたりしてみましょう。

書体＝自由



煙外好山供水墨 風前老樹奏笙簫  
(煙外好山水墨に供し 風前の老樹笙簫を奏す)

漢字条幅規定 秀級以下【八月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

生田翠龍選書

## 習い方解説 (四)

生田翠龍

國破山河在 城春草木深  
(国破れて山河在り 城春にして草木深し)

書体＝自由



文字は単に記録する為だけにあるわけではありませんし、それ自体は抽象的な存在です。それに具體性を与え、書き手の心情をストレートに表現する書体としては行書や草書はもってこいの媒体といえます。顔真卿や懷素によって押し進められました。

文字群、行や行間の在り方が大切です。詩文を詠んで…。

習い方解説 (四)

今村菁華

# 宵待草

までど暮らせど、ぬ人を

宵待草のやうせなや、

こよひは月もおねまつた

夢二の詩 由美書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今回は岡山が生んだ画家であり歌人の竹久夢二の歌をとり上げてみました。つけペンを使用して、線に強弱をつけながら書いてみました。夢二の描く美人画を想いながら、はかなげな、しかし、細くてもしなやかな線であるように心がけて書きました。

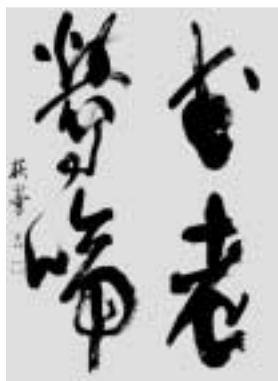
最近はいただく手紙・ハガキがパソコンの文字がふえてきて裏返して見ないと、誰からのかわからぬ事が多くなりました。表書きを拝見しただけでは相手の方の顔が思い浮かぶ…そんな便りがやはりうれしいものです。下手でも自分の顔のある字を書いてほしいと思います。特に文字を生業にしているならば。

\*落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

今月の

# ホープ作品 各部総評

No. 564



漢字部 師範 徳田 萩峯  
文字は小粒だが、強靭な線質が響きを発し、余白を緊張させる。書は線、鍛練された余韻もある。

◎漢字部総評 筆力第一という。線の鍛練には時間をかけること、楷書に時間をかけよう。（春洋評）

漢字部 師範 徳田 萩峯  
文字は小粒だが、強靭な線質が響きを発し、余白を緊張させる。書は線、鍛練された余韻もある。

◎漢字部総評 筆力第一という。線の鍛練には時間をかけること、楷書に時間をかけよう。（春洋評）



現代詩文書部 特選 戸村 博舟

手馴れた書きぶりに練度の高さが伺える。特に後半の渴筆は軽妙な運筆が生み出す美の世界。見事。雅印がお粗末、間に合せのものを押している感じがする。印も作品。（素雪評）



かな条幅部 師範 天野あい子  
切れのよい線がリズミカルに動いて美しい。過剰な作意を感じさせない深奥の表現力は見事です。

◎かな条幅部総評 變体かなの誤字が目立った。（洋子評）



漢字条幅部 師範 横井 正江  
ややひきしめた字形で余白を生かし、潤滑のバランスもよく、まとまり安定した作品である。

◎漢字条幅部総評 参考例を取り入れた作が多く見られたが、線質をとらえず形を追うもの多し。運筆のリズムも不足気味。（大雪評）



前衛書部 特選 笹木 蒼風

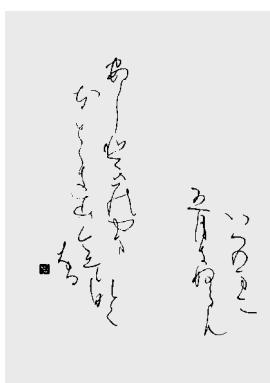
起筆から生れる厳しい線、躍動感とともに大らかさがあり、終筆でしつかりまとめた傑作。

◎前衛書部総評 前衛書の心得は十分あると思うが、書は線芸術もっと線を鍛えたい。（光昭評）



かな部 師範 優田由美子  
暢びやかなりリズムで運筆を大事にし、筆先の音が聞こえるようですが、温かい線情に墨色も美しい。臨書と同じ筆で書いてません。（洋子評）

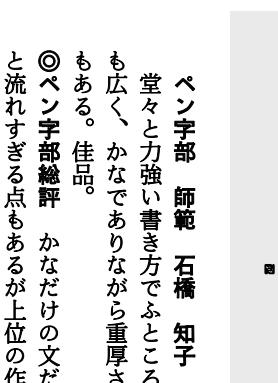
◎かな部総評 臨書と同じ筆で書いてませんか？大方が線が針金のように細すぎ、書に大切な線の響きがあります。



ペン字部 師範 石橋 知子

堂々と力強い書き方でふところと流れすぎる点もあるが上位の作も広く、かなでありながら重厚さもある。佳品。

◎ペン字部総評 かなだけの文だとゆつたりと流れて堂々とした作が多かった。（蒼玄評）



「うはにほ」とちりねるをわかよたれそつねなら、もうのおくやまけふこえてあさきゆめみへゑひもせすん

知子書

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

前衛書  
(蓮紅)

浅野彩紅  
「ホタル」

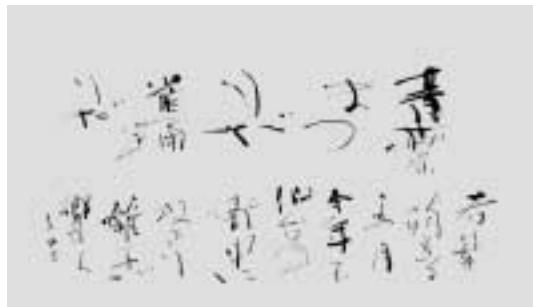


浅野彩紅書  
180×60cm

- ◆二・六の紙面いっぱいに線が躍動して、スケールの大きな造形作品となった。墨彩と相俟って現代的な感覚で明るい。
  - ◆線の重なりがよく見え、心の軌跡を見せられる思いがして楽しい。筆圧とスピードのコントロールが絶妙で、激しさと深さが好もしい。
  - ◆上部や凝縮させ、下部に大きく広がりを持たせ構えの大きい作となつた。墨色の変化が全体に表情を与えていた。下部少々広がりすぎたか。
  - ◆全体の動きがそのまま字に表現され見る者もその中に引きこまれて大きな躍動感を与えてくれる。紙と墨色が充分に生かされてないのである。
- (春洋評)  
(明子評)  
(大雲評)  
(倫子評)

現代詩文書  
(蒼玄)

熊谷青山  
「青葉まつりだ」



67×118cm

- ◆自作の詩か。上下二段を細線の冴えで構成する。潤滑のリズムが楽しい祭りの気分を明るく醸し出している。上部の余白が広すぎか。
  - ◆細線を二段に構成して青葉まつりの楽しさを躍らせて遊ぶ。構成は、やや平板になつたようにも思えるが、心情を伝えるには十分である。
  - ◆書きながら口ずさむ声が聞えるよう筆の動きがはずむように表現されている。筆先の細さが力強く書かれているのが美しく見事に表現。
  - ◆粘りのある細い線の表現は、詩の心そのもので軽やかさもあり楽しい。たゞ、全体の景色が鮮やかになる工夫があるとさらによいのでは…? (明子評)
- (春洋評)  
(倫子評)  
(大雲評)  
(熊谷青山書)

**総評**  
毎日書道展が今年で60回を数える節目の展覧会となり、記念事業が様々企画されています。大江戸博物館での「北京故宮書の名宝展」に神龍半印本蘭亭序、新国立美術館での「飯島春敬の眼」に国申文帖、台湾故宮博物院での「晋唐書法名品展」に書譜、祭姪稿等が陳列される予定です。名品の実物を見る素晴らしい機会です。今から楽しみです。作品制作の基礎は優れた鑑賞力です。名品を鑑賞しましょう。

品がありました。  
前21、篆3)の出

篆 前 現 か 漢 華祥 安藤 華祥  
桂月 行徳 東実 水塹 千葉 大内 西川 藤象  
四谷 玄穹 一貫 もく 鈴木 寿舟  
平野 角田 浅見由紀子 光輝 真理 香雨 博貴  
草堂 悠香 紀子 竹溪 朝夫

候補者  
(萬城)



118×86cm

漢字

## (蓮紅) 千葉華紅

## 「酒對一尊懷我友」

◆ □すさまよいうなりズム感がある。つぎつぎと続いて行く文体であるのに、一気に筆の動きにかすれを入れて変化をつけよくまとめてある。(倫子評)

◆ 古文字を素材としたのがよかつたか大胆に取り組んだ姿勢に共鳴する。濃墨のテカテカ光るのは好みでないが酒に酔つてもよかつたか……。(春洋評)

◆ 書き出しの重厚な線に深さと奥行きの広がりを感じる。右下終筆部やや単調なのは運筆のリズムが平板になったためか。さらに動きを。(大雲評)

◆ 字形よく構成が大胆で、運筆の喜びがひしひしと伝わってくる力作です。潤渴の変化は見る者を引き込み、飽きさせない魅力あり。(明子評)

◆ たっぷりとした重厚な線で存在感ある金文創作。濃墨のねばりと渴筆を生かし、ダイナミックな二行書。後半の渴筆やや上すべりの感あり。(大雲評)

◆ 独得の墨色を沈めて左辺の書き出し部分が重厚で品位が高い。右辺下部はやや騒がしい。下辺中央の空間も安定してやすらぎを感じさせる。(春洋評)

◆ 力強く線を沈めることにより、余白の深淵さと広がりを併せて感じさせる表現となつたのでしよう。線のどこかに軽みがあつたら……と。(明子評)

千葉華紅書  
136×70cm

現代詩文書

(大雲) 長島僊雨  
「真民の詩」

◆ 一本筆の破筆の効果をいかし、ダイナミックな二行書き。墨色がやや甘く表情が平板となつていて。運筆のリズムをもつと軽やかに。(大雲評)

◆ 心を開いて大きな夜空を見るその情境が字の迫力に表現され実に見事な出来。墨つぎは考へて書いたのだろうが一寸うなづけない所もある。(倫子評)

◆ 現代詩文書は文章が中心で、ともすれば、小手先で遊びやすい。体当たりの迫力ある作やしつとりと落ちついた作を期待している。(春洋評)

◆ 強さの魅力満喫。しかし、内容に相応しい叙情性を考慮しては如何でしょうか? 一行目の字間の変化がないことに、マークが残つた。(明子評)



150×68cm

長島僊雨書

漢字研究部  
(大唐中興頌)

選評 大野祥雲

今月のホープ作品



熊谷青山

漢字研究部 特選 熊谷 青山  
豊かで落ち着きのある作品です。横画、左  
右の払い、転折などで筆を吊り、一気に筆圧  
を加える用筆は見事。それに筆を立て、ゆっ  
くり突き進んでいるので、線には円味があり、  
重厚な線となりました。字形もよろしい。  
◎漢字研究部総評  
大唐中興頌の臨書作品を見せていただいた。  
写実的に習っている方、顏氏家廟碑や建中告

身帖の用筆で書いた方、また、創意的な作品  
もありました。それぞれ今の習熟度により、  
学書の方針が異なるのは当然でしょう。  
ただ、真卿の楷書は一作一作、心の動き、  
用筆、線質、字形など違います。そこを見抜  
いて臨書することが大切。課題の特徴を学び  
表現技法を高めることが第一です。なお、興・  
の第七画目、ぬかっている方がいました。

尚書

尚書水  
頌有  
序

水尚書  
部

大唐  
大唐  
大唐

春晁俊初節桂  
清光江江子香

大唐中  
興頌

大唐  
中興  
頌

水尚書  
部

大唐  
中興  
水尚書  
部

豊眞惠澄亮恒  
知  
作子美仙子悅

大唐

序頌有  
中興

水尚書  
部

大唐  
中興  
大唐  
尚書  
大唐

菊叙雪雅紅山  
美秀聰良  
佐  
枝舟簾芳楓房  
子圃春子泉子

大唐  
有

大唐  
有

水尚書  
部

中興  
興頌  
大唐  
中興  
大唐  
中興

千枝子  
春子泉子

漢字研究部

身帖の用筆で書いた方、また、創意的な作品

もありました。それぞれ今の習熟度により、  
学書の方針が異なるのは当然でしょう。

ただ、真卿の楷書は一作一作、心の動き、  
用筆、線質、字形など違います。そこを見抜  
いて臨書することが大切。課題の特徴を学び  
表現技法を高めることが第一です。なお、興・  
の第七画目、ぬかっている方がいました。

かな研究部  
(緑色紙)

運評 朝倉春江

今月のホープ作品



聲雅春

嵐翠直

怜紅み

桂翠西

香芳綠

泉綾子

扇霞よ

彩徑鈴

前 A 大正も五高  
橋 I 雪華く久葉崎  
秀

碓伊礫石新秋青  
作

寿清知藤久理子

弘子耀子雪枝子

大八調生明蛭長大霜木秀大声硯東卯昌蘭竹玉N己八草五  
雲街布大漠和月雲月曜水雲香水線月苑鼎屬松H未街会葉  
倉足小村吉根杉堀湯黑福小米佐薄新吉末木橋坂多石小戸  
千和川木

爽美雅 鶴裕菊幸桂幸歌碧聲雅春嵐翠直怜紅み桂翠西益  
陽枝子滿子子枝雲月穗子洋香芳綠泉綾子屬讀よ彩徑鈴江

生大 京己五松硯石書木正 A 土五大石 明硯玉八慈八童三八高東う生童正千正書  
橋未葉葉材水習徑曜華 I 氣葉阪習 漢水松街空街泉鷹街陵光る大泉華字華泉

秋山 作 吉山森茂宮前堀星藤西都徳関志嶋柴塩佐坂斎後古小小木茱木金片加岡  
田根木澤丸田江野村澤丸田矢村 澤々本藤藤矢塩暮村池内杉岡源  
美 み 与 木 美 野

壽久 佑 美陸翠草愛幸佐昌瑠と萩愛抱桺翠美町覚永知祥陵久昭順善志豐照良照  
子子芳秋石子泉枝子美り峯泉舟子泉紅山舟子翠惠二子高龍子徳子芳

卯遊八童 士坪帝皓も五正高山京土千澄石玉森大華己渡青藤紅紅正明昌翠館華帝調生四鬼卯春生安千高伸石生岩

月雲街泉 入 気和塚映泉く葉華陵王橋氣葉春舟葉地雪雲未刃峰 瑞瑤華漢苑吟山祥塚布大谷高月光大波字真玄映大沼

天安熱浅 遊 緜若横山森森真松前前堀平平浪内遠東積玉館田高高鈴音社佐近小熊木木君木神川薰金小小梅植大石石生池新  
野部田川 佑 谷菜井口田田庭岡花島川山川山川平木野口橋木木谷本藤藤山野村村島原田口木田野川山木飼橋駒田井

あい明紅な タ イ 佑 理矩正教龍藤ケ律麗代魯優彩秋古希絹雅惠津み千昌合智悦三初閑笙谷等淳春尚典智悦辰久ま久如道さ正萩廣子  
子子江子博谷ミ子子春子華塘子子雲葉子代蘭子広子と香密洋涼遊子翠子夫美子子風石子花溪子

千炎湘咲春童書英竜京戸椿大東こ咲詩遊大英秀千大信琇蘭大秀竜大春青桂も筑こ A 石澄土前英高童千高硯正書春遊大澄  
艸佳南舟汀泉峰泉橋出翠阪小舟扁雲阪峰水字阪篤韻鼎雲水泉阪汀峰月く桜だ I 習春氣橋峰真泉葉陵水華泉汀雲阪春玄

柴佐佐佐櫻坂喜後近小小小小工楠久吉北岸神川河門加小冲尾小大大大生内字臼植上岩今猪井伊伊石池飯飯新  
雲藤藤々田口藤藤林林藤島市藤 次瀬爪川本成島崎合脇藤野 川川野西石方田井村原上村又上藤藤田田中萬井

煌華詠ミ淳龍し早良松千晃芳さみ邑香和良彩重 萩行桂優和信龍萩和泡輝藤一星美皓春綾美岳都貴理靜紫英則喜尚惠紫靜  
月炎子ヨ子貞子苗泉春代萩ゑ子蘭心重雨子祥茜子子敬子惠光子晨峯栄美祥子泉華乃子峰子泉屬香邦子子古萩苑江

選千澄竜椿梨声春 皓幕千大高春椿前蒼八調土遊も北千皓玄千秀も秀八童正泉佑英童秀仙 竜大秀道声椿八樹咲千東皓  
外葉春泉翠雪香月 映張葉阪陵汀翠橋青街布氣雲く陸字映翠葉水く水街春華会希峰泉水台" 泉阪水 香翠街原舟葉總映

195 名湯山山百本村宮三松松松藤藤平春林羽野野西西西中中戸富戸寺恒土知田田高高高泉角砂鈴鈴助菅庄清淡柴重  
氏本口口不岡田川嶋田島重佐川井井山 成沢崎澤川岡守井村澤部澤村谷念野中口山橋橋橋水水倉川木木川野司水谷田信裕

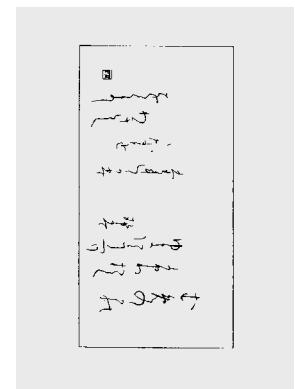
略禮幽美代喜梨玲春敏映翠翠白寿晴榮勝雙紅愛彩藤悦 祥翠博惠悦澄つ律可梢美花初敏雅龍龍育洋え香栄八咏正愛現有  
子香泉子桜香蓮子華舟景鉢三子子美鶴楓雅菜峰象子薰映泉舟子子心江子三翠泉泉江子泉宝栄子子子楓子重紳子華香

◎かな研究部総評

書き馴れない書風のためか、変体がなをよく書きこなして、整齊された形を真似しただけの未熟な線が多かった。しつかり書き込んで、緑色紙の美しさを会得しましよう。

数多い変体がなをよく書きこなして、整齊された臨書。余白のとり方、線の強弱、細くて微妙な運筆が枯淡さえ感じさせます。

かな研究部 特選 戸来 益江



# 「書道芸術」特別昇級試験 師範合格者模範作品

## かな部 第三種

如月 山本 由美子

高野切第三種 臨書

千字 片岡 照徳

高野切第三種 臨書

審査長 恩地 春洋

## 総評

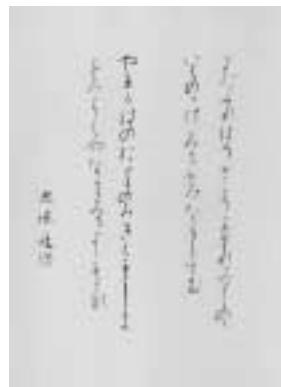
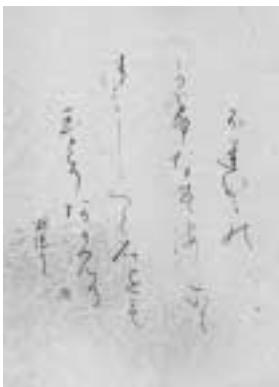
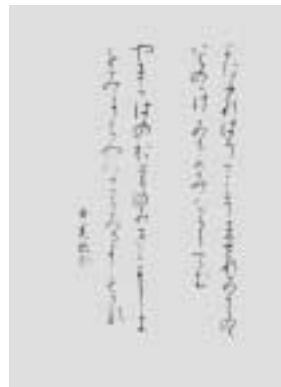
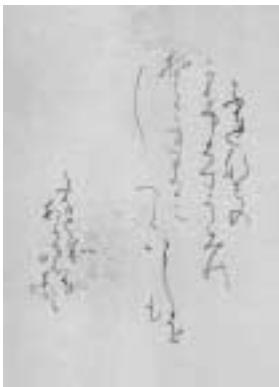
### 「軽薄な線になつていなか」

寸松庵色紙 臨書

寸松庵色紙 臨書

創作

創作



最近は時代の反映か、独創性を尊重しているのは勿論ですが、軽く、明るい書風が好まれているよう思われます。勢い、線質の研究がおろそかになっているように思われます。特に線の強弱についての研究が不足していないでしょうか。軽薄な線が多いのではないかと心配している一人です。

今回の課題、漢字の集王(字)聖教序(行)、書譜(草)、かなの高野切三種、寸松庵色紙などの特徴をしっかりとつかむことです。

・古典の生まれた時代背景、書者の人間性なども調べるとよいでしょう。  
・線の強弱、冷暖、線の深浅、書きなど、書写的呼吸を読みとろう。

書は全人格の反映ですから、先ずは人間としての情操を豊かにすることです。手紙の文字などを見てもわかるように、書いた文字は性格や人柄や教養までも読みとることができます。文字を書くこと(技術)も大切ですが、自分の心を磨くことが、もっとも大切なことだと思います。それぞれの書の完成のために。

楷書 創作

大雲 奥村 麻美

夢回春草池塘外詩  
在梅花烟雨間

行書 集王聖教序 臨書

麻美書

昭微 小林 梢寿

夢回春草池塘外詩  
在梅花烟雨間

行書 集王聖教序 臨書

梅寿書

潛莫覩在智猶迷况乎佛  
道崇虛乘幽於穿弘濟方

草書 書譜 臨書

梅寿正

杜秋杜秋乃有り玉古  
と但翁せに東

梅寿正

(二種) 臨書の得意な人、課題の上手  
な人とはっきりと得手不得手が表現さ  
れてバランスが全体にとれていない感。

(二種) 和歌を理解し細部をよく観察  
して不明な字は調べることが重要です。  
忠実に丁寧に根気よく臨書して「〇〇  
臨」と書いてください。「〇〇書」と  
書いている人がいました。(平川峰子)

(二種) 臨書は慎重に取り組む姿勢が  
見受けられました。創作はもう少し研  
究してほしい方が多かった。はじめる  
時には誤字のないよう調べてから、  
作品にしてください。

(二種) 九成宮醴泉銘は、楷書の極則  
と言われ難い古典です。字形、線の  
鋭さに欠ける作品が多く見受けられま  
した。日頃から臨書勉強に取り組んで  
ください。

各部短評

草書 書譜 臨書

在智猶迷况乎佛道崇虛  
乘幽於穿弘濟万品興沛

行書 集王聖教序 臨書

はあり玉古レ但翁  
せに東

漢字

(二種) 九成宮醴泉銘は、楷書の極則  
と言われ難い古典です。字形、線の  
鋭さに欠ける作品が多く見受けられま  
した。日頃から臨書勉強に取り組んで  
ください。

(小川弘舟)

(三種) 臨書は寸松庵色紙の把握は全般によく、高野切第三種は散漫なもののが目立った。創作は課題のルビの見落として誤読し、かなづかいのミスや誤字が多く残念でした。(石井明子)

漢字条幅

(一種) 一種は基本点画をしつかりと勉強するといい。行書体では流れすぎて字形のバランスとれないものが日立つた。墨もあまり薄いものは筆の働きがよくないものが多い。(千葉蒼玄)

(二種) 頭動礼碑の特徴を捉えた臨書か否かが鍵。行書創作は、書体違反も見られた。楷書、草書が混在した。臨書と創作で受検生の力量の差が顕著でした。普段の努力が必要。(種谷萬城)

(三種) 楷行草の三体を調和よく書くことが大切。自運の楷書は古典をバツクに正しい点画で、臨書課題は行草の典型。用筆法、結構法を学ぶこと。規定違反作もありました。(大野祥雲)

かな条幅

(一種)俳句の構成で巧み、大胆な作品とかな作品として不安な作品の違いは何か、和歌創作も同じですが、墨の変化、字の大小あまり急でも落ち着かない。巧みな作は美しい。(奥田瑞舟)

◆「昇級試験団体出品について」を、必ずよく読み提出してください。

※次回昇級試験に関する

## 注意事項

(二種) 段の人の中では、字形、運筆、墨の濃淡等、手馴れた作品作りに感心いたしました。研究心ありよいのですが、くずす時に誤字にならないように注意して仕上げてください。(木村東舟)

二字

(二種) 文字の大きさが極端に小さかって、逆に紙面から溢れんばかりに大きくなり、何處も書くべきか? 余白も考えながら書く必要があります。(尾形澄神)

(二種) 楷行ともに美しく書けています。作品は減っているように思いました。美しい自筆の文字でいただいた葉書や手紙は本当に嬉しいものです。今後も弛まず努力いたしましょ。(小池蹊舟)

◆「昇級試験団体出品について」を、必ずよく読み提出してください。

## 「書道藝術」特別昇級試驗 師範合格者

おめでとう  
ございました。



北村欣子	木村吟峻	小林貞舟	伊藤則子
酒井恵子	宍塙真紀	科野隼三	
末棟直子	関田洋子	津田幸子	
増田佳子	松本泰子	三浦嘉子	
矢吹鈴子	横堀みち子	渡辺万里子	
・ 現代詩文書部			
相澤敦子	青柳教子	足助実枝	
安達瑠里子	安藤みほ	石崎甘雨	
石野孝子	市沢玲子	井上 悠	
大石清華	岡田とよ子	小野寺京芳	
片桐胡洋	川田てい子	菅野友衣	
菊池慶輝	岸間 文	木原輝子	
木村久美子	河内馨容	後藤伊真	
小林千恵	佐藤真智子	篠崎游華	
渋谷陽子	鈴木智香子	鈴木津弥	
錢谷雪蘭	高橋良恵	竹澤白輝	
笨 眠子	辰身吟造	玉木惠葉	
樽澤裕子	対馬恵萩	富永直子	
西澤彩峰	畠山礼子	人見華泉	
藤田かつ子	安田椿香	矢野京子	
山根知江	遊佐柏葉	渡邊恵子	
・ 篆刻・刻字部			
上田静子	小野澤臥牛	鈴木光雲	
藤田翠径	古畑耕作	馬宮智恵子	
・ 前衛書部			
青 裕子	阿部千香	石森光琴	
伊藤祥琳	伊藤青藍	大木敦子	
小形美奈子	小野寺美寧	片 幸子	
神谷恵一	菊地美紀子	北爪八重子	
後藤嘉平	佐々木桂瑠	笛木蒼風	
佐藤友恵	佐藤百合子	澤日和香子	
鈴木亞希	鈴木克友	鈴木道春	
数原 恵	高橋沙緒理	高橋香齋	

3、  
移  
籍

◇漢字部審査会員候補から現代詩文

卷之二

小野寺華源

◇漢字部無鑑查から現代詩文書部へ  
大理顕風

4、  
复  
鼎

卷之三

• 篆字部

江口

・かな部

大野 麻友

• 篆刻 • 刻字

中野石山

前衛書部

長壁玄子

五二

別表第1（第2条第4項） 会員及び準会員資格

資 格		条 件
会 員	審 会 員	<p>1 審査会員候補が、書道芸術院展において</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大賞を受賞したとき</li> <li>2) 準大賞を受賞したとき</li> <li>3) 白雪紅梅賞（記念賞を含）を2回受賞したとき</li> </ol> <p>※ 本院所定の単位認定を修得しているもの</p> <p>2 上記にかかわらず、理事会において推挙したとき</p>
	審 会 候 員 補	<p>無鑑査が、書道芸術院展において、3点を得点したときに審査会員候補（会員）の資格を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 院賞、毎日新聞社賞（記念賞を含） 2点</li> <li>◎ 特選 1点</li> <li>◎ 秀作 0.5点</li> </ul> <p>上記にかかわらず、理事会において推挙したとき</p>
準 会 員	無 鑑 査	<p>一般公募で、書道芸術院展において1点を得点したときに無鑑査（準会員）の資格を得る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 準特選 0.75点</li> <li>◎ 佳 作 0.5点</li> <li>◎ 褒 状 0.25点</li> <li>◎ 入 選 0.1点</li> </ul> <p>第59回展から改定（入選0.1は59適要）</p> <p>上記にかかわらず、理事会において推挙したとき</p>